



富山県

No.60 2011年7月

中央植物園だより



パラグアイオオオニバス

直径1m以上の葉を水面に浮かべ、その葉裏には鋭いとげが密生するパラグアイオオオニバス。白く大型の花には甘い香りがあるため多くの人を魅了します。まさにその姿は夏の王者の貫録いっぱいです。

「貫録」 撮影/ 浅野陽子さん (第13回私の植物写真展応募作品)

オオオニバスに乗ってみよう



富山県中央植物園では、今年の夏も夏休みの子供向けの企画として「オオオニバスに乗ってみよう」を開催いたします。

小学生、幼児を対象にした、水面に浮いた巨大なオオオニバスの葉の上に乗る不思議な体験です。この機会にぜひご体験ください。

この行事の参加には整理券が必要ですので、詳しくは裏面の「催し物のご案内」を参照ください。

BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

特別展「中毒・かぶれ・アレルギー

— 植物による事故を防ぐ —

ヒガンバナが有毒であることは有名ですが、よく栽培されるスイセンやアマリリスにも同じ成分が含まれていて有毒であることをご存知でしょうか。今年、富山県下でも、アサツキと間違えてスイセンをおひたしにして食べたという食中毒が発生しています。スイセンは花や大きな球根があれば間違えることはありませんが、小さな球根から出た葉は細く、ニラやノビルに似ています（写真左端）。スイセンにはニラのような強いネギ臭がありませんので、匂いをかげば容易に区別することができます。

また、最近、料理に添えられたアジサイの葉を食べて中毒したという事例が報告されています。アジサイは有毒なのでしょうか？有毒成分として青酸配糖体や嘔吐性アルカロイドの可能性が指摘されていますが、よくわかっていません。疑わしきは食べない方が無難です。

園芸植物には、イヌサフラン（コルチカム）、カロライナジャスミン、キョウチクトウ、グロリオサ、ジギタリス、スズラン、ヒヤシンスなど、間違えて食べると危険なものいろいろあります。しかし有毒だからといって怖がることはありません。正しい知識を身につけると共に、家庭菜園には園芸植物を植えない、子供やお年寄りの手の届くところや台所には球根を置かないなど、ちょっとした事で誤食による中毒事故を予防することが

できます。

植物園では夏休みの企画として、これまで事故例のある有毒植物について、写真や標本などを使って、特徴や有毒成分、中毒症状などを紹介する特別展を開催します。園芸植物のほか、山菜と間違いやすい野生の有毒植物、触るとかぶれる植物、花粉症の原因となる植物なども紹介します。

この展示は、植物中毒に関する研究会（代表富山大学和漢医薬学総合研究所 佐竹元吉客員教授）のご協力を得ています。研究会による、植物自然毒のリスクプロファイルが厚生労働省のホームページに掲載されています。ご参照下さい。

<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/poison/index.html#higher>



二ホンスイセン

中央植物園のこんなところ紹介 文献室

富山県中央植物園には、植物関係の本や資料を集めた図書室があり、ここは文献室と呼ばれています。この文献室には、日本語で書かれた和書や外国語で書かれた洋書、中国語の本などもあり、文献室に居ながら世界の植物のことがわかるようになっています。この中には貴重な文献も多く、例としては1778年より現在まで300年以上も続けて発行されている雑誌のBotanical Magazineや美しいランの絵が描かれたライケンバッキア、また和書の中には江戸時代の百科事典とでもいえる和漢三才図会や、日本で初めての植物図鑑とも言える本草図譜（復刻版）などがあります。

これらの文献類は、植物研究の基礎資料になるほか、植物園に寄せられる様々な質問に答える時などに使われます。

また中央植物園では、植物園で行われている研究を記した研究報告を毎年発行しており、これらは国内の植物関係施設だけでなく、海外の植物園や博物館にも送られています。この結果、交換寄贈として世界の植物園や博物館からは様々な雑誌・資料が贈られて来て

おり、これらはなかなか手に入らない最新の貴重な文献となっています。

文献室は専属の司書がないため通常は公開していませんが、ご覧になりたい文献がある場合は、事前の連絡をいただければ、職員の立会いのもと文献類をご覧いただくことも可能です。また昨年も行いましたが、植物園の行事としても文献室の公開を行っておりますので、このような機会をご利用いただければと思います。



世界の植物の本が並ぶ文献室

植物園 トピックス



■花ビタミン

中央植物園では4月22日から「花ビタミン」を始めました。「花ビタミン」はミニバラのプリザーブドフラワーを使ったバイキング形式のフラワーアレンジです。好きな色のプリザーブドフラワーや器、香りを選んで自由に飾り付けをしていきます。できあがったフラワーアレンジメントは、世界でたった一つの特別なプリザーブドフラワーになります。自分の部屋に飾っても良いですし、プレゼントにもできます。容器とプリザーブドフラワーの数によって500円と1000円のコースがあり、老若男女どなたでも楽しむことができます。2月末日まで常設する予定ですので、是非一度体験してみたいはいかがでしょうか。

研究紹介◎『温暖化によって北進するきのこ』

副主幹 橋屋 誠

昨年の夏は非常に暑かったですね。地球温暖化によって平均気温が上がると、その地域に見られる生物はより涼しい場所へ移動するため、生育適地は標高が上がる傾向にあります。そして高山地域の生物は移動すべき場所が無くなり絶滅が危惧されますが、同時に低地ではより暖かい地域で生活していた生物が侵入するという現象も起こります。

昨年、県内の氷見市で不思議な形をしたイカタケが採集されましたが、このイカタケは東南アジアから南アジアの亜熱帯に分布する種類で、緯度の高い日本で見つかること自体が少なく、また今回の富山県記録はイカタケのほぼ北限と言えるものでした。今回のイカタケの記録が地球温暖化によるものか、今後継続して調査することが必要です。



2010年12月に氷見市熊無の果樹園で見つかったイカタケ

これまでの研究で生育地が北進するきのことしては、オオシロカラカサタケなどが報告されています。オオシロカラカサタケは傘の径が7~30cm、高さが10~25cmと大型で、初夏から秋にかけて発生し、外見が食用とされるカラカサタケと似ていますが、オオシロカラカサタケは若い時期のひだがオリーブグリーン色を帯びることなどによって容易に両種を区別することが出来ます。このきのこは、堆肥をまいた肥沃な畑地やウ

ッドチップを敷き詰めた道の緑地帯、枯草が腐植となった道端などほとんど人里で見られることが多く、また多数群生することも知られています。北陸では1998年に石川県金沢市に記録されているので、その北側に位置する富山県内で見つかることも不思議ではありません。



石川県で記録されたオオシロカラカサタケ

友の会会員 能勢育夫氏 撮影

植物や動物のように姿が見られる生物の消滅は一見して明らかですが、きのこの本体は地中にある菌糸であるため普段は目にする事ができません。また私たちが見るきのこは、植物の花や果実に相当する器官で、きのこが見られなくてもその種が消滅したとは言いきれない上に、きのこは腐り易く発生しても短時間で分解してしまうため、私たちがきのこの存在を正確に確認することは容易ではありません。

このため、きのこのフロラ調査には、同じ場所に季節を変えて何度も出かける必要があります。採集されたものを標本として蓄積することが重要になってきます。加えて、きのこは菌類の一員であり、種の同定のためには顕微鏡での観察が欠かせません。中央植物園では、これらの調査・観察を友の会きのこ部会の皆様といっしょに行なっています。

植物園の植物紹介 1

屋外展示園の植物



カシワバアジサイ

アジサイというとアジアの植物という印象が強いのですが、アジサイ属とそれに近縁な属の植物は、ハワイや、北アメリカ東部から南アメリカにかけての地域にも分布します。カシワバアジサイもその1つで、アメリカ合衆国南東部のテネシー州からフロリダ州にかけての湿り気のある林などに自生します。

名前の通り、カシワの葉を思わせる切れ込みのある大きな葉をつけるのが特徴です。学名のヒドランゲア・クエルキフォリア (*Hydrangea quercifolia*) も、「ナラに似た葉のアジサイ」の意味です。花序(かじよ:花の集まり)は縦長の円錐状になり、小型の正常花と、がく片が大きく発達した装飾花が混在します。花序がほとんど装飾花からなる園芸品種や、装飾花が八重咲きになった園芸品種も知られ、最近ではこれらが多く出回っています。

なお、紀伊半島から九州の深山に生えるヤハズアジサイもカシワバアジサイに似た切れ込みのある葉をつけますが、この2種が特に近縁というわけではないようです。

見られる場所:北米東部の植物エリア(世界の植物ゾーン)
展示園課 高橋一臣

催し物のご案内

■企画展示 サンライトホール
企画展には入園料が必要です。

写真展

「立山連峰 高山を彩る花々」
6月24日(金)～7月13日(水)

特別展

「中毒・かぶれ・アレルギー
植物による事故を防ぐ」
7月15日(金)～9月14日(水)

夏休み子ども企画

「木の実のクラフト」
7月22日(金)～8月31日(水)

「フラワーデザイン展富山2011」
9月17日(土)～9月19日(月・祝)

写真で振り返る共同研究

「雲南省調査の記録」
9月30日(金)～10月26日(水)

■講座・講習会

★県民植物学講座

「身近な植物に親しむ」◎要申込

①6月26日(日) 13:30～15:30

「写真で見る高山植物」

②9月4日(日) 13:30～15:30

「西洋野菜の魅力」

フラワーアレンジ教室◆要申込

9月17日(土) 11:00～12:00

9月18日(日) 13:30～14:30

定員/各日30名

参加費/花材代1,000円、
他に入園料が必要です。

オオオニバスに乗ってみよう

8月19日(金)・20日(土)・21日(日)

9:00～12:00・13:00～16:00

定員/両日とも午前・午後
各100名(整理券必要)

第19回TOYAMA植物フォーラム

8月28日(日) 13:00～16:00

定員/70名、参加費/無料

植物画講習会II◆要申込

10月1日(土)・2日(日) 2日間連続

10:00～16:00

■特別開園

ゲッカビジン鑑賞

7月の開花日(連続した2日間)

19:00～21:30

入園料/300円

オオオニバス観賞会

8月26日(金)・27日(土)

19:00～21:30

入園料/300円

■月例行事

緑のコンサート

第1土曜日 11:00～12:30

集合場所/サンライトホール

参加費/入園料が必要

日曜植物案内

第1日曜日 13:30～14:30

集合場所/サンライトホール

参加費/入園料が必要

◎要申込 事前の申込が必要です。前日までに「電話」でお申込みください。

◆要申込 事前の申込が必要です。申込は1ヶ月前から往復はがき・FAX・メール(botanic@bgty.m.org)で受け付けます。

★印は植物園ボランティアの養成講座です

富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)

(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)

休園日 毎週木曜日(4月中と祝日の場合は開園)、
年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 大人(一般および大学生) 600円

団体料金(20名以上) 480円

高校生以下無料

冬季入園料(12月～2月)

大人(一般および大学生) 400円

団体料金(20名以上) 320円

高校生以下無料

交通案内 JR富山駅から、富山地鉄バス「ファボーレ」経由菟の島循環または「ファボーレ」経由速星行き(休日のみ)に乗りし「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分/富山市中心部より車で約15分/北陸自動車道富山インターより車で約15分/JR速星駅より車で約8分

富山県中央植物園だより No.60

編集・発行/財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山市婦中町上轡田42 TEL 076-466-4187 <http://www.bgty.m.org>

平成23年6月20日発行 印刷/中村印刷工業株式会社